

目標達成に向けた重点的取組

～第3ステージ～

『第3ステージ』… 2022年～2024年度末までの3ヶ年【PDCAサイクル】
(今回は1～9年(前期・中期・後期)と小学校・中学校を併記)

■はじめに■

2014年 豊後大野市校長会『豊後大野版 学力向上プラン

～2020年度以降の目標達成に向けて～』を策定・提言

長期目標(9年間プラン)

「2020年度大分県学力定着状況調査において大分県平均を上回る」

↓↓↓

2015年 豊後大野市教育委員会『目標達成に向けた重点的取組』を提起

具体的な取組を明文化して推進

↓↓↓

2018年 豊後大野市教育委員会『目標達成に向けた重点的取組～第2ステージ～』を策定・推進

「学びに向かう集団づくり」の項目を1番目に挿入

↓↓↓

2021年 豊後大野市校長会『目標達成に向けた重点的取組～第3ステージ～』を策定・提言

新学習指導要領の「育成を目指す3つの資質・能力」で取組を整理し、
それぞれの達成指標を設定

1 学びに向かう力の育成

【達成指標】

将来の夢について考えることができる児童生徒が8割以上
授業や行事で、目標を立て、友だちと協力して粘り強く取り
組む児童生徒が8割以上

(1) 学びに向かう集団づくりの構築

○目標を明確にし、それに向かって協同で努力することで、集団での結束を強める

(2) キャリア教育や郷土学を通して、将来の夢や目標を意識させる活動の充実

○自分の夢や目標を意識させ、意欲の向上を図る

(3) 主体的な学びにつながる自治的・自発的な特別活動(学級活動等)や行事の充実

○達成感や満足感、所属感や連帯感、自己肯定感や自己有用感の醸成

○主体的な学びに直結するための学習展開の工夫 ～生徒指導の3機能を意識して

○行事のねらいの見直し ～つきたい力の共有

○各学期に複数回の実践

(4) 被差別の子どもを中心とした仲間づくり、人権学習の確かな実践

○実態に応じた計画的な人権学習の授業実践

○安心して学べる環境づくり ～「わからない」と言える集団、友だちの支えを実感できる集団

(5) (1)、(2)、(3)、(4)の実現に向けた軸となる活動の設定

2 思考力・判断力・表現力の育成

【達成指標】 **自分の考えをもち、相手にわかるように表現する児童生徒が7割以上**

(1) ICT機器を活用し、考えを深める授業展開

○焦点化～目標・発問・活動・評価基準のしぼりこみ

○視覚化～言葉・内容・授業展開・論理の見える化

○共有化～効果的なペア、グループトーク等による伝え合いにより、

理解や思考を深める（深め、充実し、新たな発見をする場）



「生徒指導の3機能（共感的人間関係）」

「学びに向かう力（わかった、なるほど、やってみよう）」

(2) 総合的な学習の時間（郷土学）における探求的な学習過程、体験活動の充実

○「ひと、こと、暮らし」に視点をあてたストーリー性のある単元構成の工夫

(3) 多様なテキストから情報を収集し、整理・分析する学習活動の充実

○文章、図、グラフ、表、絵から必要な情報を読み取り、

考えを整理したりまとめたりする活動を多く取り入れる

○正確な音読指導の継続（前期（小学校））

(4) 学力調査問題等を活用した授業改善

○教師自身が実際に問題を解く ～伸ばしたい力を共通理解する

○過去問題の授業への活用

○活用問題～単元末に実施（日常化）

(5) 学期に1回、子どもたちが自分で問いを立て、情報を収集し、問題解決や発見を行うプロセスを重視する学習の実施

3 生きて働く知識・技能の習得

【達成指標】	1～6年(小学校):年度末学力調査において評定1の割合を1・2年5%、3・4年10%、5・6年正答率30%以下を15%以内 ※児童数 10 人以下の場合は 50%以内、児童数 10 人を越える場合は 3 人以内
	7・8年(中学校):年度末学力調査において正答率30%以下を15%以内 ※生徒数 10 人以下の場合は 50%以内、生徒数 10 人を越える場合は 3 人以内

(1) 9年間を見通した基礎・基本の徹底 ～学習規律の徹底、授業力の向上

- ①チャイムで始まり、チャイムで終わる（徹底）
 - ・ 2分前に着席、授業後は次の時間の準備をしてから休む。
- ②「めあて」・「課題」・「まとめ」・「ふり返り」の位置づいた1時間完結型授業の日常化
 - ・ 課題の質の向上 … 学びたくなる、見通しを持てる、興味がわく、
追求したくなる、考えの違いを引き出す 課題の設定
 - ・ まとめとふり返りの時間確保 … 教師主導から子ども自身のことばで、
できたこと、わかったことのふり返り
- ③構造的な板書とノート指導（特に前期（小学校））の工夫
 - ・ 板書計画の作成
 - ・ 考えを書く、まとめる、ふり返る
- ④授業におけるスキルアップタイムの充実
 - ・ 単元を通して計画的にスキル学習（復習や練習）を取り入れる
- ⑤授業前、授業中における補充学習
 - ・ 予習的指導
 - ・ 効果的な見合い、教え合い
 - ・ 習熟の程度に応じた支援
- ⑥家庭学習の充実
 - ・ A1ドリル「スマイルネクスト」を毎日20分活用する。
 - ・ A1ドリル「スマイルネクスト」を活用し、前学年分を1学期間で終わらせる。

(2) 学習環境の整備

- ①学習環境のUD化
 - ・ 場の構造化、刺激量の調整、学習・生活ルールの明確化
 - ・ 時間の構造化（見通し）、情報伝達の工夫（視覚的）
～全学級で毎時間の『授業のながれ』の提示
- ②辞書の活用の習慣化と計画的な図書館活動
 - ・ 3年生以上～国語辞書を単元を通して計画的に使用
 - ・ 7年生（中学生）以上～英語辞書での単語調べを単元を通して計画的に行う
 - ・ 図書館を利用した問題解決的な学習展開

(3) 交流による指導力の向上

- ① 町内の小学校と中学校との小中一貫教育校を見据えた交流および授業参観の実施
- ② 教振小・中教科部会の交流のなかで、指導改善の情報交換、学習状況調査の分析を実施
- ③ 中期（小学校）の教科担任制の推進
- ④ 近隣校との合同教科部会による研究推進（中期以降）

(4) 保護者との連携～家庭教育力UP5カ条の周知・徹底

- ① 生活スケジュール表・学習の手引きを活用し、宿題定着率100%
 - ・ 家庭への連絡や教育相談等を通じ、家庭学習の充実に向けた協力要請
 - ・ 個に応じた課題の提供（特に低学力層、予習）
 - ・ 質と量の確保とやり直しの徹底（内容の系統性、量に対する見通し）
 - ・ 自主学習に取り組む（中期（小学校高学年）を中心に）
- ② 各学年の学習状況調査結果の保護者への公表
 - ・ 1年～8年：市CRT・標準学力調査
 - 1月中旬に実施し、学年末学級懇談で結果・分析を当該学年に公表・説明
 - 分析結果をもとに、4月の調査に向けた対策を改善・強化
 - 1～6年～国語、算数 7・8年～国語、社会、数学、理科、英語
 - ・ 5年・8年：大分県学力定着状況調査、6・9年：全国学力・学習状況調査
 - 10月末日までに個人票とともに結果・分析を当該学年に公表
 - 2学期末学級懇談で説明

■市学力調査について【小1～中2（1年～8年）】

<CRTは基本的な問題・標準学力調査は実力テスト的な総合問題>

1～4年 CRT 5～8年 標準学力調査